

合格体験記（進学編）

次の道へ

関西外国語大学 外国語学部 スペイン語学科

私が関西外国語大学へ進学することを決めたのは3年生の5月です。

高校在学中、私生活の中で異文化コミュニケーションに興味を持ち、国際科の大学へ進学することを決めました。学校の友達や過去に卒業した先輩方は専門学校や指定校推薦で進学する人がほとんどでした。しかし、関西外国語大学の指定校推薦は無く、私は公募推薦入試という形で受験することに決めました。

受験は面接でもなく小論文でもなく、「英語」のマーク式テストでした。友達が就職や指定校推薦で進路が決まる中、一人で勉強するのは辛かったです。

受験は私に色々な事を学ばせてくれました。苦難な時の自分自身との闘い。苦難を乗り越える強さ、苦難を乗り越えてこそその達成感、そして何より苦難な時こその人との繋がりなどです。

今後、私は農業とは違う道を行きますが、農芸高校の生活は私にはかけがえのない大切な時間となりました。感謝の気持ちを忘れず次のステップを進みたいと思います。

進学に向けて

畿央大学 健康科学部 健康栄養学科

私は元々、違う大学への進学を考えていました。でも、インターネットで情報を調べていくうちに、設備が整っていることや就職先、資格の合格率から畿央大学が気になりました。

実際にオープンキャンパスへ行くことで、学校の雰囲気や実験施設の設備を確かめることができたので、3年生の夏休みに進学先を畿央大学に変更しました。

私は公募推薦で受験したので、国語と英語の試験がありました。

初めて赤本を解いたときは昨年の合格最低点に届きませんでした。塾に行っていなかったもので、YouTube など利用できるものは利用したり、解けなかった問題は先生に質問したりすることで点数は上がっていきました。

勉強していく中でつらくなることもあると思いますが、どうか諦めずに自分に自信を持ってがんばってください。

「好き」を進路に繋げるために

鹿児島大学 農学部 農学科

私は高校生活の中で課題研究や学校の諸活動(行事や農業クラブ役員など)、課外活動(農業インターンシップなど)に力を入れて取り組んできました。どの活動も、自分が「やりたい!」「この活動楽しい!好き!」という気持ちを行動に移してきました。

進路について考え始めたのは二年生の初め頃で、進路選択に迷った私はまず自己分析をしました。自分が将来何をしたいのか、何に興味があるのかを考えて、進学先を選びました。志望校が決まってからは、入試科目である面接と小論文の対策に励み、面接練習では、話す内容を深めることに苦労しました。

小論文では自身の実体験を結び付けた文章を書くことに苦戦しました。

しかし、自分が「好き」で取り組んできた活動の数々が面接や小論文の材料として活かすことができ、前述の難点を克服できました。

最終的に面接・小論文どちらも数をこなす(一日の練習回数は面接2,3回・小論文1回)ことで完成度を上げることで自信が付き、試験当日を迎えました。

後輩の皆さん、ぜひ興味あることに熱中してみてください。進路実現までには大変なことも多くありますが、自分と向き合い続けて、自分の「好き」を大事にしてください。盲点になりがちですが、進路実現の際に自分の武器になります!

自分のための進路

長崎大学 水産学部

私が進学先を決定したのは3年生の夏頃でした。それまではなかなか行きたい大学が決まらず、毎日探していました。そこで長崎大学に惹かれ、オープンキャンパスは期間が間に合わなかったため、長崎大学についてホームページやパンフレットなど様々なものを見る事で長崎大学に進学したいと決めました。

受験勉強をしようと思いましたが、私が農芸高校で初の長崎大学への受験だったので、過去の受験記録がなく何も情報がないままでの勉強でした。

面接練習はなかなか思うようにいかず、言葉に出すことが難しく感じました。

しかし、何回も練習することで自分のしたいことや経験したことなどを自分の言葉で伝えられるようになりました。

筆記テストの勉強では過去問がなかったため自分自身で様々なことを調べ、基礎的な知識をつけるなど今できる事をできるだけ模索し、努力しました。

これからの進路を考える中で不安なことやしんどいこと、分からないことがあると思いますが、周りの先生や友達を頼り、自分自身を信じて頑張ってください。

「周りの方の協力を最大限活用して」

岐阜大学 応用生物科学部 生産環境科学課程

私が志望校を岐阜大学に決めたのは高校3年生の夏休みでした。

先生に岐阜大学を受けることを報告したときに、合格した先輩は塾に通っていたこと、口頭試問や小論文の範囲に生物が含まれていることを教えていただいたところ、自分で勉強するだけでは厳しいと感じ、夏休みから塾に通いました。

小論文対策は過去問を解き、農芸高校の先生に提出して添削していただき、それを塾の先生に見ていただいて、これからの授業で勉強する内容を決めるといった流れで行いました。

私は先輩から小論文の範囲や内容の傾向は決まりがあるため、過去問にはひと通り目を通しておいた方が良いと言われ、その出題傾向を基に勉強しました。

面接練習は1ヶ月前から行い、校長先生や教頭先生、塾など沢山の先生に練習していただいたおかげで、本番ではパニックにならずに話すことができました。

小論文や面接の練習では色々なことを言われ、しんどいと感じることもあるかと思いますが、挫けず頑張ってください。

「計画を持って行動する」

愛媛大学 農学部 食糧生産学科

私は1年生の時から勉強には手を抜かず、計画的にテストに取り組みました。

3年間で学年順位が1番低い時で10位でした(あの時は悔しかった…)。

このような努力は3年生になって報われます。なぜなら、進学先選び放題ですからです。勉強だけではなく、課題研究や農業クラブ役員の活動など成果を出すために進路に向けて計画的に行った事は受験の際に出す活動報告書を書く材料として優秀な武器になりました。15個ある資格も同様です。

また、こういった計画を確実に遂行していく事で、私は3年生の夏に校内で3人しか取れない、模範の生徒として称される教育長賞も頂きました。

私は3年の夏休みから受験の対策を本格的に始めました。愛媛大学の受験内容は学科試験と面接で、学科試験は理科、国語、英語で、理科に関しては1年生の時にやった内容をあまり覚えていなかったもので、一から勉強に取り組みました。

また、滑り止めの他の大学の試験対策も同時並行で計画的に行い、学校で早期から面接練習や文章の添削を先生にいただき、休日は数時間の勉強を行いました。そうする事で自信をもって当日を迎える事ができました。

とにかく計画性は進路実現にとっても重要です。後輩の皆さんも今からできる事をできる範囲で頑張ってください。